

# Salon

Vol.115 2018年7月 夏号



ホール3F 壁画 ポール・ゴッアマン作「クインテット」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — 阪田知樹
- 03 Phoenix Presents — アイルランド伝統音楽の最高峰 アルタン
- 05 Pick Up
- 07 Essay de say — クララ・シューマンに寄せて 宮崎貴子

# フランツ・リストの地、ハンガリーで認められた逸材 阪田知樹さん



©HIDEKI NAMAI

若きピアニスト阪田知樹の名は、2013年にアメリカで開催されたヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにおいて最年少入賞を果たしたことで一躍広く知られるところとなった。当時19歳。その後、ドイツのハノーファー音楽大学に留学し、名教授として知られるアリエ・ヴァルディに師事。名手パウル・バドゥラ＝スコダからも多くのことを学んでいる。2016年にはハンガリーで開催されたフランツ・リスト国際ピアノコンクールで優勝の栄冠に輝いた。リストの地、ハンガリーで演奏が認められたのである。演奏はおおらかで骨太でエネルギッシュ。これから幾重にも変容していく限りない可能性を秘めたもので、往年のピアニストの古い録音を愛し、歴史的名演からも多くを学んでいるためか、演奏はどこかつかつく古典的な空気をただよわせている。今回のリサイタルではリストを主軸に、こよなく愛すベートーヴェンとスクリャーピンを加え「いま」の心身の充実を演奏に託す。

(取材・文:伊熊よし子/音楽ジャーナリスト)

## 阪田知樹(さかた・ともき/ピアノ)

2016年フランツ・リスト国際ピアノコンクール(ハンガリー・ブダペスト)第1位、併せて6つの特別賞受賞。コンクール史上、アジア人男性として初の優勝を果たす。1993年名古屋生まれ。東京藝術大学を経て、ハノーファー音楽演劇メディア大学ピアノ科修士課程に在籍。「コモ湖国際ピアノアカデミー」の最年少生徒として認められて以来、イタリアでも研鑽を積んでいる。19歳で、第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにて最年少入賞。第35回ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、及び聴衆賞など5つの特別賞、クリーヴランド国際ピアノコンクールでモーツァルト演奏における特別賞受賞。国内外問わず数多くの指揮者、オーケストラと共演を重ねるほか、室内楽奏者としても活躍している。2015年4月、リスト・ショパン・ドビュッシー・スクリャーピンを収録したデビューCDアルバムをリリース。横浜市・ハノーファー在住。2017年横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞。

「阪田知樹 ピアノリサイタル」は、2018年9月28日(金)午後2時開演。茶菓付で、入場料3,000円(指定席)、友の会2,700円。学生1,000円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時~17時)。

【プログラム】ベートーヴェン:ピアノソナタ 第31番 変イ長調 作品110

リスト:パガニーニによる超絶技巧練習曲 S.140 R.3a(1838年版)より  
第3曲「ラ・カンパネラ」、第5曲「狩り」  
ピアノソナタ 口短調 S.178 R.21

リスト(プゾーニ編):メフィストワルツ 第1番 S.110 R.427  
スクリャーピン:3つの小品 作品45より 第1曲「アルバム綴り」  
4つの小品 作品51より 第1曲「夢さ」  
2つの小品 作品59より 第1曲「詩曲」  
ピアノソナタ 第5番 作品53 (予定)

# リストへの深く強い思いを 聴いていただけたらと思います

今回のプログラムはベートーヴェンのピアノソナタ第31番で幕開けするという、最初からエネルギー全開の構成ですね。

そうなんです。ぼくはいま、ベートーヴェンのピアノソナタに集中して取り組んでいる時期ですので、ぜひ演奏したいと思ったのです。第31番を選んだのは、4年間ドイツに住んでチェンバロやフォルテピアノも勉強するなかで、ベートーヴェンはロマン派への道しるべを示唆しているような、シューマンやショパンをある意味で超えたロマン性が作品に内包されていると思ったからです。このソナタは第30番、第32番とはまた異なる超自然的な世界観が感じられ、天国の門が開いていくようなスピリチュアルな面も含んでいます。第30番は美しい作品ですから大好きで、人間的な温かさを感じます。第32番はドラマティックな悲劇性を孕んでいる。各々異なる個性を放ち、ベートーヴェンの人生を映し出しているようです。いずれはこの後期3大ソナタを弾くりサイタルを行いたいと考えています。

2016年のフランツ・リスト国際ピアノコンクール(以下リスト・コンクール)優勝は、阪田さんにどんな意味をもたらしただしょうか。

子どものころからリストが大好きでしたので、この優勝は本当に大きな意義を感じています。リスト・コンクールはアニー・フィッシャー、ラザール・ベルマン、ディノ・チアーニ、パウル・バドゥラ=スコダをはじめ、ぼくが敬愛する多くのピアニストが優勝&入賞しているコンクールですので、いつか受けたいと思っていました。5年に1度ブダペストのリスト音楽院を舞台に開催されるのですが、毎回課題曲が少しずつ異なるため、自分がかつとも演奏したい作品のときに受けたいと思っていました。2016年は審査員もすばらしく、シプリアン・カツァリス、ミシェル・ベロフ、クン=ウー・パイク、レスリー・ワードら現役のピアニストの名前が並び、作曲家のジェルジ・クルターグも参加していました。もうこれは受けるしかないと思ひ(笑)、万全の準備をして臨みました。

このコンクールは第1次予選からファイナルまで、どのような形式で行われるのですか。

この回はリスト没後130年の記念の年でしたから、課題曲はオール・リストで、第1次予選はエチュードと自由曲です。緊張はありませんでした

が、短い曲ばかりでしたので集中力の持続に苦労しました。続くセミファイナルは、もともとリラックスして弾くことができました。ぼくは歌劇「ノルマの回想」を弾いたのですが、演奏が終わったらバルコニー席の審査員全員がスタンディングオベーションで演奏を称えてくれたのです。これには驚くとともに深く感動しました。そしてハンガリーの審査員から「こんなにすばらしいリストを聴いたのは、リヒテルがハンガリーに来て弾いた以来だ」といわれ、生涯忘れられない思い出となりました。ファイナルは、ソロとコンチェルトの2回が組まれていました。コンチェルトはピアノ協奏曲 第1番、第2番、「死の舞踏」の3曲全てを用意し、本選の前々日にくじ引きで自分が演奏する一曲が決まるという形でした。優勝が決まった瞬間は、本当にうれしかったですね。いま師事しているアリエ・ヴァルディ先生は「これできみは世界一のリスト弾きになった」といつてくれました。以来、よくハンガリーで演奏しています。ハンガリーは長い伝統と歴史、豊かな文化を持つ国ですが、食事とてもおいしいんですよ(笑)。

ハンガリーでは、やはりリストを演奏する機会が多いのでしょうか。

いいえ、他の作品も演奏しています。つい先ごろのハンガリーのツアーでは、ラフマニノフのピアノ協奏曲 第3番を演奏しました。ドイツでは、エルプフィルハーモニー・ハンブルクの室内楽ホール、ライブツィヒのゲヴァントハウスでも演奏しています。こうした場所ではスクリャービン、ブラームス、J・S・バッハなどの作品をプログラムに組んでいます。ぼくはアナログ人間で、古い録音もいろいろ探して聴いていますが、楽譜についても図書館に自筆譜などを徹底的に調べます。古い楽譜も収集していて、今回のリストの「ラ・カンパネラ」は、1838年版の楽譜を手に入れたため、ふだんみなさんが聴いていらっしゃる「ラ・カンパネラ」とはひと味異なる演奏になると思います。「狩り」もより華やかな演奏になります。「メフィストワルツ 第1番」もゴージャスで立体的で密度の濃いブゾーニ版を用います。ピアノソナタ ロ短調にも期待してくださいね。

阪田さんは歴史に名を残す名ピアニストの演奏をこよなく愛し、とりわけスクリャービンを得意としたロシアの偉大なるピアニスト、ウラディーミル・ソフロニツキーの録音は、片時も離せないほどの愛情

を注いでいますが…。

実は、ヴァン・クライバーン・コンクールに参加したときも、ソフロニツキーの古い復刻CDを持参していきました。練習に疲れると、ぼくは彼のスクリャービンに耳を傾ける。するとインスピレーションが湧いてくるんです。ソフロニツキーの演奏は力の抛り所のような存在。コンクールでは、第1次予選でスクリャービンのピアノソナタ 第5番を弾きました。以来、このソナタは各地で演奏する愛奏曲となっています。今回はそのソナタの前に小品を3曲置いています。スクリャービンはそれぞれ空気が変わっていくような曲想を備えていますので、その変化を体感してほしいと思います。実は、以前ロシアに演奏に行ったとき、スクリャービン博物館を訪れました。ここはソフロニツキーが住んだこともある場所ですので、ずっとこの場にいたいと感じるくらい感動しました。

阪田さんは、幅広いレパートリーをお持ちですが、今後はどのようなレパートリーが増えそうですか。いまどの方面の作品に目が向いているのでしょうか。

やはりベートーヴェンのピアノソナタにもっとも興味があります。ピアノソナタ 第29番「ハンマークラヴィア」や「ディアベリ変奏曲」も視野に入っています。室内楽も大好きで、特に弦楽器と一緒に演奏するのが楽しいです。ベートーヴェンのヴァイオリンソナタ、ブラームスのヴァイオリンソナタは演奏する機会が多いのですが、シューマンの室内楽にも惹かれています。異なった音世界を知りたいからです。実は、ぼくがリストにのめり込んだきっかけとなった曲は、中学2年のときに先生に薦められた「BACHの主題による幻想曲とフーガ」でした。それまで弾いていたモーツァルトやベートーヴェン、ショパンとはまったく違った音世界がそこにはあり、理解しにくいからもっと知りたいという欲求が湧いてきたのです。そこで「超絶技巧練習曲」やオペラの編曲などに次々と興味が広がり、交響詩全曲の録音を手に入れ、資料や伝記を読み、さまざまなピアニストの録音にも耳を傾けました。その後、16歳でバドゥラ=スコダ先生に師事した際、リストを徹底的に勉強しました。先生のパリのご自宅に4日間通いつめ、一日5時間ほどレッスンをいただきました。そこで演奏の基礎を培いました。このころから、ぼくのなかでリストへの愛情が芽生えた気がします。今回のリサイタルでは、そのリストへの深く強い思いを聴いていただけたらと思います。



**7月20日(金)**  
10:00 受付開始  
ザ・フェニックスホール  
友の会優先予約

**7月23日(月)**  
10:00 受付開始  
イーフェニックス  
E-PHX優先予約

**7月24日(火)**  
10:00  
一般発売

インターネット予約、ご来店による  
お申込みは7月25日(水)10:00から!

★5月1日(火)よりホールチケットセンターはビル8階へ移転しました。

■世界一周音楽の旅27

2018年12月5日(水)

19:00開演 指定席

一般¥5,000(友の会価格¥4,500)

学生¥1,500(限定数)

アイルランド北西部、ドニゴールの伝統音楽の真髄を  
美しくダイナミックに伝えるケルト音楽の至宝

アイルランド伝統音楽の最高峰 アルタン

出演 マレード・ニ・ウィニー(ヴォーカル、フィドル)、マーティン・トゥーリッシュ(アコーディオン)、  
キーラン・クラン(ブズーキ)、マーク・ケリー(ギター)、ダヒー・スプロール(ギター)  
※ギタリストは、マークまたはダヒーどちらか1名の来日となります。

曲目 ドウラマン、ジェイ・ディーズ・リール、ジブシー・デイヴィー、ドニゴール・ハイランド・セット、  
ギャップ・オブ・ドリームス、ザ・マンズ・オブ・ジャンユアリー ほか(予定)



アイルランドの伝統音楽を正攻法で演奏し世界中を魅了。現在は名実ともにアイルランドを代表するグループ。フィドル(ヴァイオリン)を軸に、疾走するようなギターとブズーキが絡み合う躍動感あふれるダンス・チューンと、マレードの透き通るように美しいヴォーカル曲が魅力。音楽の源泉に触れるような素朴でピュアなサウンドを存分にお楽しみください。

アルタン (Altan/アイルランド音楽バンド)

アイルランドの北部ドニゴール地方出身、現在のケルト音楽シーンにおいて名実ともに最高峰のグループ。フィドルを中心とした躍動感溢れるダンス・チューンと、マレードの天使のような透き通ったヴォーカル曲が魅力。デビュー以来、ドニゴールの伝統音楽を純粋で素朴過ぎるほど正攻法に表現し、世界中を魅了してきた。そのピュアなサウンドは、80年代後半の停滞していたアイルランド音楽シーンに新鮮な衝撃を与え、現在に至るシーンの盛り上がりへの起爆剤となる。バンド名はアイルランドの中で最もケルト色が強く残る地域ドニゴール州にある湖の名に由来する。アルバム『アイルランド・エンジェル』(1993)でバンドは不動の地位を築く。1996年にメジャー・レーベルのヴァージンと契約。1997年に初来日を果たした後、定期的に来日公演を成功させている。これまでに10枚以上のオリジナルアルバムを発表。最新作は「The Gap of Dreams」(2018)。

ホール主催・協賛公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

■ザ・フェニックスホール友の会優先予約

- ・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
- ・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
- ・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

■E-PHX(イーフェニックス)優先予約

- ・E-PHX(イーフェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
- ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
- ・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。

■一般発売

- ・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
- ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

http://phoenixhall.jp/

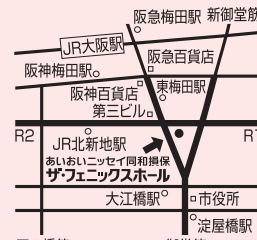
チケットセンターのページからお申込みください

■インターネット予約(主催公演のみ)

- ・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
- ・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますが電話でお問合せください。
- ・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
- ・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
- ・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店による  
お申込み

- ・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物8階、エレベーターを降りて廊下右手です。



チケットお申込み後のお受け渡し方法 下記①または②のどちらかとなります。

- ①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。
- ②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール



## Osaka Guitar Summer 2018 関連プロジェクト 福田進一とクピンスキー・ギターデュオによる 公開マスタークラス&ギターアンサンブル 公開レッスンの聴講募集開始

要申込み

受付開始  
7/20(金)10:00

Osaka Guitar Summer 2018では、マエストロ福田進一と、世界トップクラスの演奏家が次代を担う若者を指導する「公開マスタークラス」、アマチュアギタリストを対象にギターの楽しさに触れて頂く「ギターアンサンブルワークショップ」のレッスンを公開します。聴講をご希望の方は、事前のお申し込みをお願いいたします。

8月25日(土)

11:00~11:50 **ギターアンサンブル公開レッスン**

■講師 岩崎慎一、益田展行、猪居 謙

■受講曲 林そよか:ギターアンサンブルのための夏空スケッチ  
(あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール委嘱作品 2018)

■受講生 16名のアマチュアギタリスト

13:30~ **公開マスタークラス**

①13:30~14:20 ②14:40~15:30

③15:50~16:40 ④17:00~17:50

■講師 福田進一&amp;クピンスキー・ギターデュオ

■受講生 綾田日向子、宇田奈津美、会所絢子、深澤太一&amp;山口莉奈

■入場料 無料(要・入場券。当ホールチケットセンターのみお取り扱い)

※お1人2枚まで ※1枚の入場券でギターアンサンブル公開レッスン、公開マスタークラス両方を聴講いただけます。

■お申込み方法

ザ・フェニックスホールチケットセンター TEL 06-6363-7999 (平日の10時~17時)

FAX:専用の申込み用紙に必要事項をご記入のうえ送信ください。FAX 06-6363-1124

申込み用紙はホールホームページ <http://phoenixhall.jp> よりご入手可能です。ウェブ:右記のURLもしくはQRコードからアクセスください。 [https://f.msgs.jp/webapp/form/10897\\_ddq\\_52/index.do](https://f.msgs.jp/webapp/form/10897_ddq_52/index.do)

## Osaka Guitar Summer 2018 コンサート情報

好評発売中!!

**フェスティバルコンサート(修了コンサート) 8月26日(日) 13:00開演(12:30開場) 自由席**

昨年より違った様相で開催しているフェスティバルコンサート(修了コンサート)。マスタークラス受講生によるソロ演奏のほか、ギターアンサンブルワークショップ受講生たち、そしてワークショップ講師たちによるアンサンブル演奏と盛りだくさん。ギターアンサンブルのために書き下ろされた林そよかさんの新曲は必聴です。

■出演 公開マスタークラス受講生、アンサンブルワークショップ受講生、岩崎慎一、益田展行、猪居 謙(以上ギター)

■曲目 林そよか:ギターアンサンブルのための夏空スケッチ(あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール委嘱作品 2018)  
公開マスタークラス受講曲 ほか

■入場料 1,500円(友の会割引なし。当ホールチケットセンターのみのお取り扱い)

※8月26日(日)16:00開演「福田進一&amp;クピンスキー・ギターデュオ ジョイントリサイタル」のチケットをご購入の方は無料。(要事前申込み。定員200名になり次第、締め切らせていただきます。) ※学生券はありません。

■お申込み方法 **ザ・フェニックスホールチケットセンター** TEL 06-6363-7999 (平日の10時~17時)
**福田進一&クピンスキー・ギターデュオ ジョイントリサイタル 8月26日(日)16:00開演(15:30開場) 指定席**

■出演 福田進一、クピンスキー・ギターデュオ(以上ギター)

■曲目 《ソロ/福田進一》ジュリアーニ:華麗なソナタ 作品15  
ポンセ:4つの小品より(マズルカ/トロピコ/ワルツ)

《デュオ/クピンスキー・ギターデュオ》

ロッシーニ(ジュリアーニ編/クピンスキー改編):序曲「泥棒かささぎ」

ガーシュウィン(クピンスキー編):ラブソディー・イン・ブルー ほか

■入場料 4,000円(ザ・フェニックスホール友の会価格/¥3,600)  
学生券/¥1,000(限定数・当ホールのみのお取り扱い)■お申込み方法 **ザ・フェニックスホールチケットセンター** TEL 06-6363-7999 (平日の10時~17時)

■会場 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

■お問い合わせ **ザ・フェニックスホール「大阪ギターサマー事務局」06-6363-0211(平日9時~18時)**

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛  
公演

関西二期会サロンオペラ 第17回公演  
「人間の声」「夜鳴きうぐいす」

主催 公益社団法人関西二期会

発売中

2018年8月22日(水)、23日(木) 19:00開演 自由席 一般前売・当日¥3,000(友の会価格¥2,700)



出演 奥村哲也(指揮)、高木 愛(演出)、須山由梨(ピアノ)、米田哲二(公演監督)

キャスト(22日) 「人間の声」 白石優子

「夜鳴きうぐいす」 佐竹しのぶ、福嶋 勲、山田愛子、竹内直紀、萬田一樹、田中崇由希、山田千尋、藤井零治、神田行雄

キャスト(23日) 「人間の声」 小西潤子

「夜鳴きうぐいす」 田村香絵子、細川 勝、森 理奈、山崎 覚、山咲 響、服部英生、野々村 瞳、西口佳宏、吉田昌樹

曲目 プーランク:歌劇「人間の声」 ストラヴィンスキー:歌劇「夜鳴きうぐいす」

毎回ご好評を頂いております関西二期会サロンオペラ。気軽にプロの演奏を楽しんで頂くことをテーマに公演を重ねてきました。第17回公演は、ジャン・コクトー原作・プーランク作曲のモノ・オペラ「人間の声」、アンデルセンのお伽話を題材にしたストラヴィンスキー「夜鳴きうぐいす」の二作品を歌手の息遣いまで感じられるザ・フェニックスホールの空間でお楽しみください。

協賛  
公演

ヴォーチェ弦楽四重奏団

主催 テレビマンユニオン  
協賛 東レ株式会社

発売中

2018年11月3日(土・祝) 14:00開演 指定席 一般前売・当日¥4,000(友の会価格¥3,600)  
U25¥2,000 (1993年以降生まれの方限定。公演当日に生年を証明できるものをご持参下さい)

出演 ヴォーチェ弦楽四重奏団/サラ・ダイヤン、セシル・ルーバン(以上ヴァイオリン)、  
ギョーム・ベケール(ヴィオラ)、リディア・シェリー(チェロ)  
成田達輝(ヴァイオリン)、萩原麻未(ピアノ)

曲目 モーツァルト:弦楽四重奏曲 第15番 二短調 K421 シュルホフ:5つの小品  
ショーソン:ヴァイオリン、ピアノと弦楽四重奏のための協奏曲 二長調 作品21



©Marco Borggreve ©Marco Borggreve ©Sophie Pawlak

来日4度目を数えるフランスの気鋭「ヴォーチェ弦楽四重奏団」。本年は日仏友好160周年にあたり、同じくパリ国立高等音楽院に学んだピアノの萩原麻未とヴァイオリンの成田達輝を迎えフランスを代表するショーソン作曲の協奏曲で共演する。

協賛  
公演

山田剛史 ピアノリサイタル ～音の万華鏡～

主催 iroha

発売中

2018年11月16日(金) 19:00開演 自由席 一般前売・当日¥4,000(友の会価格¥3,600) 学生前売・当日¥2,500

出演 山田剛史(ピアノ)

曲目 C・P・E・バッハ:アリオーソと9つの変奏 H259 ラヴェル:組曲「鏡」  
ジョージ・ベンジャミン:ピアノ・フィギュアズ (2004) シューマン:ダヴィッド同盟舞曲集 作品6

2013年フェニックス・エヴォリューション・シリーズにおけるバッハ:イギリス組曲全6曲によるリサイタル以来、バッハを中心として広がるピアノの風景に興味を持って活動してきた山田剛史。「音の…」と題されたリサイタルシリーズでは、時代や場所を超えて通じる音の佇まいを探る。2015年の「音の遊び」に続き、2018年のテーマは「音の万華鏡」。シューマンとラヴェルの名作を軸に、18世紀から21世紀に渡る多彩な美の世界を描く。



©Masasaki Hiraga

Salon

アート・イン・フェニックス

ポール・ギアマン作「クインテッド」

ホール3F壁画

ザ・フェニックスホール3階ロビー壁面を飾る「クインテッド」は、ギアマンの得意とする寒暖色の対比、赤色と青色を中央で分割した斬新な作品。卓越した色彩表現で描きだされた音楽家は詩的情緒に溢れ、耳を傾ければ弦楽五重奏が聞こえてきそうです。

ポール・ギアマンは、1926年フランス北部のサンカンタンに生まれました。パリ国立美術学校でブリアンションに師事し、名誉あるローマ大賞を受賞。その特典として与えられた4年間のローマ留学で古典的基礎を習得しました。彼の作品は個人のコレクターだけでなく、ホテルやコンサートホールなどの多くの公共施設、パリ市立美術館を始めとする世界各地の美術館に作品が收藏され、2007年、81歳で生涯を閉じた今もギアマンは世界中で愛され続けています。



## チケットセンター移転と改修工事について



### チケットセンターが新しくなって2か月が経ちました。

[ザ・フェニックスホールチケットセンター] が8階に移転して、約2ヶ月が経過しました。

沢山の方にお立ち寄りいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

前号の速報チラシでお知らせいたしました「会員の皆さまへのアンケート」にも、快くご協力いただきありがとうございました。

今後、皆さまのご意見を参考に、今まで以上に気持ちよくご利用いただけますよう、改善ができたかと考えております。

皆さまのご来店を、心よりお待ちしております。

### フェニックスタワー 改修工事を終えて…

約3か月間休館させていただき、ビル外壁の美装工事をはじめ、ホール内の舞台設備・照明設備・空調設備の改修工事を行ってまいりました。多くのお客さまより「どう変わったの??」と質問をちょうだいしておりますので、ここで一部をご紹介します。まず、ビルの外装は、かなり大規模な足場を組み、庇(ひさし)部分のステンレスサッシや天井パネル、当ビルの象徴である3本柱の美装を行いました。

ホールの設備としては、ホール階のロビー・廊下・楽屋・お手洗いのほぼ全ての照明をLEDに変更し、空調設備、遮光壁の駆動装置(モーターや滑車・ワイヤーなど)の更新工事を実施いたしました。

また、ホール客席部分に「手すり」を設置いたしました。以前から段差が分かりにくいというお声もあり、場内アナウンスやスタッフの声かけで転倒防止を心掛けてまいりましたが、物理的な対策が一つ実現いたしました!

ホール内やロビーの外観に大きな変化はなく、“様変わり!”を期待されていた皆様を少しがっかりさせてしまったかもしれませんが、お客様により快適にお過ごしいただくための大事な工事が無事に完了いたしました。

ホールにお越しの際には、ぜひ目にとめていただければ幸いです。

これからも「あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール」を末永くご愛顧くださいますよう、ホールスタッフ一同、心よりお願い申し上げます。



# クララ・シューマンに寄せて

— 宮崎貴子



Keizo Matsui

4年前の3月、シューベルト国際コンクールの凱旋公演として立った、ザ・フェニックスホールでのリートデュオリサイタルの舞台—そこで頂いた、ふるさと大阪での温かい拍手とお客様の笑顔を、懐かしく思い出します。

ザ・フェニックスホールよ、お久しぶりです！7月29日、クララ・シューマンについてのレクチャーコンサートにて、またよろしくお願ひいたします！

天才少女と注目を集め、19世紀を代表するピアニストとして名を馳せたクララ・シューマン。その肖像画は、欧州通貨統合前の最後の100マルク紙幣にも使われたほど、ご当地ドイツでは有名です。

クララといえば、忘れられない体験があります。私が6年間の留学生活を終え、帰国した1年後のことでした。コンサートツアーのため渡独中、フランクフルトにて、なんと、クララが59歳から76歳で亡くなるまで暮らしていた家を訪問することができたのです。そこは博物館などではなく、今も一般の人が普通に暮らしている住居。留学中知り合った方のお嬢さんが、その家の住人の知人であることを知り、頼み込んで連れて行って頂くことができました。きっと私のような野次馬的来訪者は少なからずいるのでしょう。正直、あまり歓迎されたようには感じませんでしたが、迎えてくれた40代くらいの物静かな女性は、「中は完全に改装しているけれど、間取りはそのままよ」「この部屋は、多分クララの伝記本にも出ている写真の、応接間兼レッスン室」など、伝記を片手に、親切に説明してくれました。そこは今では、8人掛けのテーブルが置かれたモダンな内装のダイニングルームになっていましたが、確かに、壁の幅、ドアの位置などは、本で見る写真そのまま！—この部屋でクララが毎朝練習し、生徒たちにレッスンをしていたのか…！

私は、彼女が日々の中で最も濃い時間を過ごしたであろうその同じ空間に、自分が身を置いている、思いがけない運命とも思えるほどの幸運を全身に感じながら、彼女がこの家で過ごした日々へ思いを馳せたのでした。

—「全てのフレーズが生き生きと波打ち、撫でるように豊かな音色で弾いた」と云われるクララの演奏は、聴く人にどれほどの感動を与えたのかしら…？がっかりとした体を少し前かがみにして歌うようにピアノを弾くクララ、しっかり者の娘たちと語らい、病床の息子たち（成人した7人の子供のうち、3人の息子は全員、何らかの病に悩まされた）やその子供らの心配をしながら仕事に邁進するクララ、新しいものは何でも知りたがり、その目をいつも生き生きと輝かせていたというクララ、深い友情で結ばれていたブラームスの新曲を、誰よりも先に弾きとおすことを楽しみにし、亡き夫シューマンの作品校訂版全集の編集に心血を注ぐクララ…。

7月29日公演の『伊東信宏 企画・構成 レクチャーコンサート ピアノはいつピアノになったか？補遺2 ～クララ・シューマンとピアノ～』は、フランクフルトのクララの家の家主が見せてくれた、正にその伝記本を近年邦訳され好評の、玉川裕子先生のお話と、私、宮崎貴子のピアノ演奏でお届けいたします。

玉川先生は、クララの人生を生き生きと語ってくださることでしょう。そして今回私が演奏いたします1846年製のヨハン・バプティスト・シュトライヒャーのオリジナルピアノの音色は、きっと私たちをクララが生きた時代へと誘ってくれるに違いありません。

会場にてお目にかかれることを楽しみにしております。

宮崎貴子(みやざき・たかこ)/ピアノ奏者 東京音楽大学ピアノ演奏家コース、同大学院を経てドイツ・ハノーファー音楽演劇メディア大学修了。2013年シューベルト国際コンクールリートデュオ部門第1位(於ドルトムント・ドイツ)ほか、国内外のコンクールで多数受賞。フォルテピアノ、女性作曲家作品、リート伴奏を軸に多彩な活動を展開し、色彩感、躍動感溢れるダイナミックな演奏と楽曲に対する深い洞察力は国内外の誌上・紙上で高い評価を得ている。ピアノ音楽誌『ショパン』で『聴いてみませんか？弾いてみませんか？女性作曲家作品あれこれ』連載中。オフィシャルウェブサイト <http://takakomiyazaki.com/>



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2018年7月  
発行 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール  
編集 諸藤 修一  
デザイン 松井桂三有限公司

